C2　チームMt.Fuji

個人の成果

**◎チームメンバーと役割**

チームリーダ：佐藤DBA：白土  
構成管理担当：山田  
コミュニケーション管理担当：中島  
品質管理担当：杉山  
発表担当：濱崎

**◎個人の努力・苦労した点と成長した点**

**〇佐藤**

苦労したこと

・リーダーとしての役割

　進捗確認の確認や作業の共有をする際に、プログラミング経験がないため作業の進め方がわからず、その中で相手に間違いなく伝わるような言葉選びをするなど認識の齟齬を生まないよう考えて発言することが難しかった。

→無理に自分で考えて発言せず、わからないことは全体の場で確認した。ひとりひとりの進捗や作業の進め方を全員で確認することで、時間はかかったがしっかり認識の共有ができた。

・プログラミング

実装したい機能の処理をどのように書いたら良いかわからず質問をして毎回説明を受けないと処理を書くことができず苦労した。

→土日に経験者の方に勉強会をしていただいたり、平日にjavaの復習をするなどして知識の仕入れに取り組んだ。そのおかげで、開発の最後に取り組んだ作業では完ぺきではないが自分である程度コードを書くことができるくらいまでJavaを理解することができた。

・チームでのコミュニケーション

チームでの開発の際にもめごとが生じ、一度険悪な雰囲気になった。

→全員で話し合う場を設け、それぞれの認識を共有しあったことで誤解を解くことができた。その後からは以前よりも全員で発言しながらの話し合いをすることができるようになり、作業の効率も上がってもめごとがより良い刺激となった。私自身はその変化の中で、今まで自信がないことから相手にゆだねた進行の仕方ばかりしていたのを、相手任せにせずしっかり伝える意識をもって話し合いを進めるということを意識することができた。

成長したこと

・質問時にわからないことを相手に伝わりやすく説明することができるようになった。

はじめは質問をするときになにがわからないのかわからないということが多く、質問内容を明確にして相手に伝えることがなかなかできなかった。また、社会人だから自分で解決しなければいけないという思いが空回りして作業時間中一人で考え込んで結果わからないという無駄な時間を作ってしまった。

→復習をしてわからないことをまずは明確にする努力をしたり、わからなかった際はどれくらいの時間悩んだら質問するのかなどを決めて工夫した。その結果、開発の終盤では相手に的確なタイミングで明確に質問ができるようになったため、作業の効率が上がった。これから先もわからないことが出てきた際は今回学んだ質問に関することを生かしていきたい。

**〇白土**

苦労した点  
名刺管理アプリと違って１からすべて自分たちで考えて作らなければいけないのが大変だった。

成長した点  
チーム開発では個人での開発と違い、メンバーの進捗や作業内容を把握して情報共有しながらの作業となるため他の人のことを意識して作業することができるようになった。

**〇山田**

苦労した点  
・用件定義でのアイデア出しと外部設計  
どのようなアプリなら実現可能なのか、またどのように進めていけば完成するのか、初めての経験のため先が見えず大変だった。講師の方の意見を聞きながら進めた。  
  
・GitHubを使った変更点の共有  
チーム全員が正しく各自の変更点のみを共有できているときには問題はなかった。しかし、誤った操作をしてしまって過去の状態に戻さなくてはならない場合に、修復を試みる中でさらに誤操作を重ねてしまい時間がかかった。

努力した点

・プログラミング経験者として、行うべき処理の流れやプログラムの書き方を、同じチームのメンバーにわかりやすく説明できるよう努力した。

成長した点  
・サーバーやデータベースを用いたアプリの、情報処理・表示の流れがわかった  
HTTPリクエスト、データベースへのアクセス、スコープへのデータの格納、リダイレクト、フォワード、HTTPレスポンスの流れを知ることができた。  
特に、プログラミング言語とSQL文を相互に変換して、データベースに情報を保存をしたりデータベースから検索を行うことができるようになった点が大きく成長できた。  
・タイピングが速くなった。  
eタイピングスコア75→229

**〇中島**

苦労した点  
・６人の認識のすり合わせが難しかった  
人それぞれに知識、経験の差がありアプリ制作上の理想や考えが大きく乖離していた・一からコードをを書いた経験がなく、プログラムを作成するにあたって何から始めたらよいかわからなかった

成長した点  
・自発的に質問や意見をだせるようになった  
以前は受動的な姿勢だったが、チーム開発を通して状況や考えを素早く仲間に共有する重要性を学んだ。・チームで働く上でのコミュニケーションを意識できるようになった  
意見を伝える際、言葉の表現や表情、声色によって大きくチームの雰囲気は変わってくることを学んだ　人を不快にさせないコミュニケーションを心がけた

**〇杉山**

苦労した点  
自分たちが作りたい機能を研修で学んだ知識を利用してどのように表現すればいいのか、わからないところを質問するにしても、自分が分からないところを整理して相手にわかりやすく伝えることに苦労した。

成長した点  
・エラーが発生したときにも、エラー文を確認してどこが悪くてエラーが出ているのかを冷静に確認できるようになった。  
・5月と違ってグループでの開発だったので、チームで協力しながら1つのものを作るためのコミュニケーションの取り方や、報連相などの社会人として基礎となる能力を向上させることができた。

**〇濱崎**

苦労した点

・チーム６人で意見、認識を合わせていくことが難しかった

　　要件定義でどのようなものを作るかという意見の出し合いや細かい内容の定義をし、全員が納得する形にする

　　のにとても時間がかかった。

・わからないことの把握、質問の仕方を考えることに苦労した

　名刺管理アプリの時とは違い、１から開発を進めた。自分で、何が分からず作業が止まってしまっているのかを把握することが大切だと思った。

　自分で整理して質問をしないと、説明を受けたときの理解も十分ではなくなると感じた。

努力した点

・チームでの議論が円滑に進む立ち振る舞い

　意見を主張するときと相手の意見を尊重するときのメリハリをつけるように意識した。

　最終的なゴールを考えたうえで、時には第三者的目線で議論に参加をした。

成長した点

・一人で悩まずに相談できるようになった

　困っていること、わからないことを明確にし、相手に伝わるように意識できるようになった